

令和3年第9回尾道市教育委員会（臨時会）

日 時 令和3年8月16日（月） 午後1時 開議  
場 所 尾道市庁舎4階 委員会室  
署名委員 豊田委員

午後1時 開会

○佐藤教育長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから第9回教育委員会臨時会を開きます。

本日の会議日程は、お手元に印刷配付のとおりです。

本日の会議録署名委員は、豊田委員を指名いたします。

これより日程に入ります。

日程第1、議案の審査に入ります。

本日の臨時会は、令和4年度に使用する教科用図書の採択について、2件の議案を審査いただきます。まず、議案第42号令和4年度に使用する中学校用教科用図書の採択について、こちらは社会科歴史的分野の1教科についてです。また、議案第43号令和4年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択については、9教科について審議をいただきます。長時間にわたりますので、途中休憩を挟みながら行いたいと思います。よろしく願いをいたします。

○奥田委員 審議につきましては、情報公開の観点から、できる限り公開が望ましいと思いますが、本日の2つの議案の審査は採択における適正、公正の確保を期すため、そして委員の自由な意見交換ができるようにするためには非公開が適切ではないかと思えます。ただし、情報公開は大切なことですので、議事録については公開が妥当だと考えます。

○佐藤教育長 ただいま奥田委員さんから非公開という御意見が出ましたけれども、賛否を聞きたいと思えます。賛成の方、挙手をお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

〔賛成者挙手〕

○佐藤教育長 全員賛成と認めます。したがって、議案第42号並びに議案第43号はいずれも非公開審査といたします。ただし、教育委員会会議の議事録については、調製後、速やかに公表したいと思えます。

それでは、これより非公開といたしますので、関係者以外の退席をお願いし

ます。

それでは、議案第42号令和4年度に使用する中学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

本議案については、教科書選定委員会から信木会長の御出席をお願いしております。先生には大変御多用の中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、議案第42号の提案理由の説明を事務局からお願いします。

○**本安教育指導課長** 教育長、教育指導課長。議案第42号令和4年度に使用する中学校用教科用図書の採択についての提案理由について御説明いたします。

本議案は、社会（歴史的分野）について、自由社の「新しい歴史教科書」が令和2年度に文部科学大臣の検定を経て新たに発行されることになったことを踏まえ、文部科学省から新たに発行されることになった教科書がある社会科歴史的分野については採択替えを行うことも可能であるとの通知があったことを受け、尾道市教育委員会として5月の教育委員会会議で教科用図書の採択基本方針を御承認いただき、昨年度の採択を踏まえて、昨年度採択した東京書籍と今回の自由社について審議し、尾道市の子供たちにとってふさわしい教科書を選定することという視点で採択をすることとしたものです。

ファイルのタグの部分に令和3年度審議報告書というのがございます。この審議報告書は、5月の教育委員会会議において決定された本市の採択基本方針の縦2、採択基準に基づいて調査研究を行い、尾道市教科用図書採択事務に関する規則第3条第1項の規定により、選定委員会から報告のあったものでございます。この後、選定委員会会長から審議結果を報告していただきますので、御審議いただければと考えております。よろしくお願いをいたします。

○**佐藤教育長** ありがとうございます。

ただいまのところまで何か御意見、御質問ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**佐藤教育長** ないようですので、それでは信木会長から選定委員会の審議結果についての御説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いをいたします。

○**信木尾道市立大学教授** 選定委員会会長の信木と申します。

ただいまから令和4年度に尾道市立中学校で使用する社会科歴史的分野の教科用図書について、これまでの選定委員会の審議内容を踏まえ作成した報告書に基づいて説明申し上げます。

今回は東京書籍と自由社、2者についてのみの説明となります。

報告書は、教育委員会会議で議決された採択基本方針の採択基準に定められ

た第1から第5までの観点に沿ってそれぞれの特徴を表したものを総合的な所見の中に記載しております。また、特に評価できると考えたものには所見の前に白丸を、課題があると考えられる点については黒丸をつけ、どちらでもない場合は中点で示しております。ただし、尾道市の採択基本方針に基づき、尾道教育みらいプラン2の基本方針や重点目標との関連を考慮していること、また一つ一つの観点の重みが均一であるとは限らないことから、丸の数と総合的な評価が必ずしも比例するというにはなりません。

それでは、尾道の子供たちにとって各者より適した特徴を持つと考えられる点を中心に、報告書を基に御説明申し上げます。よろしくお願いたします。

歴史的分野について説明します。

報告書の該当ページを御覧ください。

東京書籍、自由社について調査、審議をした結果、東京書籍については、第1の観点、第2の観点、第4の観点、第5の観点を白丸、優れていると評価し、第3の観点を中点、どちらでもないと評価いたしました。自由社については、第1の観点、第2の観点、第3の観点、第5の観点を中点、どちらでもないと評価し、第4の観点を黒丸、課題があると考えられると評価いたしました。

それでは、観点ごとに特徴的であると評価した点について説明いたします。

第1の観点、基礎、基本の定着。

まず、東京書籍について。②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情や国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識、技能を身につけさせる工夫、白丸です。索引に示されている人名の数は351である。そのうち現代で扱われている人物の数は36である。また、国宝、重要文化財、世界遺産、世界の記憶、無形文化遺産の資料にマークをつけることにより文化遺産を示している。神話、伝承等に関する事例数は5である。お手元の教科書、スクリーンに該当ページを映していただいておりますけども、290ページの索引のところを具体的な場所として御覧いただくとして、ここに人名が351あるということです。国宝、重文、資料のマークがついておりまして、拡大しないと分かりにくいですが、文化遺産を分かりやすくしております。また、54ページを見ていただきまして、神話や伝承はこのような形で取り上げられております。

それでは、自由社の第1の観点についてであります。①単元の目標の示し方、中点です。見開きごとにタイトルを、平安京と摂関政治、モンゴル帝国と世界史の成立等の項目で示している。また、タイトルの下にどのように、なぜと問いかけで追求する課題を示している。さらに、見開きの右ページの下段に

チャレンジを設定し、学習課題に対応した学習活動を示している。教科書では58ページ。最初のタイトルですね。左のほうにありますけれども、こういう形の単元の示し方です。また、同様に78ページ。問いかけ方のところも。これは、どのようにしてですね。また、先ほど東京書籍で見ていただいた索引を同様に見ていただくと、人名は384扱っておりますけれども、国宝、重文、世界遺産マークは同様についております。また、神話や伝承につきましては38ページから41ページ。こちらは6つ取り上げております。

それでは、第2の観点、主体的に学習に取り組む工夫について御説明いたします。

まず、東京書籍では、①興味、関心を高めるための工夫に白丸をつけました。主体的に学習に取り組めるように、大項目の導入において絵図や写真を示し、人物や事象のイラストを用いた年表を掲載している。2ページにわたってということですかね。また、キャラクターの問いにより学習への興味、関心を高めようと構成している。探求の課題、探求のステップにより生徒の問いを喚起し、主体的な学びが行われるよう工夫している。導入の写真や挿絵については62ページを御覧いただいて、東京書籍62ページです。こういう形で生徒たちの興味づけを行っています。また、63ページ、右のページを御覧いただくと、キャラクターが問いを投げかけているというところも御確認できるかと思えます。左側に生徒役のキャラクターがそれぞれ3つ問いを発しており、それから先生役の人が方向性を示している。このような工夫がされております。

続きまして、自由社です。自由社では、②課題の設定、整理、分析、振り返りを展開するための構成上の工夫を特徴として上げました。評価は中点です。教科書で使うマークとロゴを紹介して教科書の見方を示し、学び方の具体例及び体験的な学習の実施をするための工夫を示している。教科書6ページを御覧いただくと、マークとロゴの説明が御確認できると思えます。下のほうです、下段の。また、先ほど東京書籍で見ていただいたことと同様のページを参照していただくと69ページ。導入の絵図や写真、人物と主な出来事について興味づけする欄は同様にありますが、比較して御覧いただきたいと思えます。こちらでもキャラクターの会話の形で示されていますが、右側のほうです、疑問の形で2つ出ています。つくりは違いますが、同様の工夫はされているところでもあります。

第3の観点、内容、構成、配列、分量について。

東京書籍では、①単元や資料の配列、分量を取り上げました。評価は中点です。章立ては古代から現代へと時系列に沿っている。各時代区分によってペー

ジ数が異なっている。補充的、発展的な学習の事例数は12である。これは目次を御覧いただき、時系列の配列は、これはどこの教科書でも同じことですが、おおむね章立ては共通です。報告書にあります補充的、発展的な学習の例につきましては52ページを御覧ください。資料から発見、ここでは絵巻物です。絵巻物という資料から発見する。もっと歴史というような形で示してあるのが補充的、発展的な学習の例です。

続いて、自由社です。自由社では、この第3の観点については、②現代的な諸課題の扱いを取り上げます。評価は中点です。我が国に影響を与えた世界の歴史について学習内容を充実させている。モンゴル帝国と世界史の成立、元寇というタイトルで4ページにわたって記載し、モンゴル帝国、ユーラシア世界を結びつける。元の日本征服計画、二度にわたる元の襲来、鎌倉幕府の滅亡等の内容を取り扱っている。78ページから81ページにかけてが該当のページです。先ほど東京書籍で見ていただいたのと同様のところを御確認いただくと、まず章立てにつきましては4ページから6ページまでの目次を御確認ください。また、補充的、発展的な学習としては、調べ学習のページ、時代の特徴を考えるページ、64ページにそれが出ておりますので御確認ください。64ページ。

それでは、続きまして、第4の観点、内容の表現、表記について。

東京書籍では、②本文以外の記述の工夫を特徴として取り上げました。評価は白丸です。側注の掲載数は115であり、QRコードを活用した学習コンテンツが35あり、学びを深めたり広げたりする効果がある。QRコードの例は5ページ、120ページがいいですかね、を御覧ください。これは実際にQRコードを見ていただくのは後にしましうかね。どのようなものかは後でまた一通りの報告が終わりました後、見ていただくことにいたします。114ページ、将軍の家臣のところ、また270ページの215年にはパリ協定が合意されましたというあたりに側注の例があります。

第4の観点の自由社に参ります。自由社では、②本文以外の記述の工夫を取り上げました。評価は黒丸です。側注の掲載数は156である。QRコード等の掲載がなく、ICTを活用した学習コンテンツに対応していない。側注の例は120ページの旗本。ちょっと左側のフォントの小さいところですね。また、238ページの大東亜戦争。こういった側注がついております。

続きまして、第5の観点、言語活動の充実について。

東京書籍では、②収集した情報を基にお互いの考えを深めていくための工夫を特徴として取り上げました。評価は白丸です。聖徳太子はどのような国づく

りを目指したか、グループで話し合いましたなど、話し合い活動をみんなでチャレンジというタイトルで設定し、毎時間説明する活動、トライが示されており、主体的な学びを促している。みんなでチャレンジの例は36ページ。また、トライの具体例は109ページ。一番下のコラムです。それでは、特に今のトライのところはちょっと注目していただきたいのは、織田信長や豊臣秀吉が大きな力を持つことができた理由を経済の面から説明しましょうとなっています。選定委員会では、このようにその理由を考えさせるに当たって、経済の面からという焦点をといますか観点といたらいいですかね、観点を子供たちに与えているところを評価いたしました。

続きまして、自由社では第5の観点は、②収集した情報を基にお互いの考えを深めていく工夫を特徴として取り上げました。評価は中点です。話し合い活動に活用できる問いが、兄弟姉妹のキャラクターが対話する形式で章の初め、終わり各ページに書かれている。また、意見交換会が設定されている章末もある。説明する活動として、見開き右ページ下段にチャレンジを設定し、章末にも設定している。対話する形式でというのは148ページを御覧ください。対話とまとめの図のページです。これは、対話の具体例として示されているということです。また、意見交換会につきましては209ページを御覧ください。こういうことで話し合ってみようという課題が出されています。また、先ほど東京書籍で見ていただいたのと同様のところを自由社でも比較のために見ていただきますと、133ページ、こちらもチャレンジという名前ですけれども、寺子屋、一番下の段です。当時の寺子屋、藩校、私塾について説明してみよう。ただ、何を説明するのかわからないので、調べて説明しよう、報告しようというそういう課題が出ています。また、137ページ、大改革と田沼時代、化政文化との大きな違いを2つ挙げて説明しよう。287ページ。287ページは、これは意見交換会ですね、今見えているのは。もうちょっと左へ。時代区分の問題。出ていますね。時代区分の考え方が3つの案があるのだということで、なぜか理由を考えてみようという課題です。今のようところが具体的に違いを見ていただくのに分かりやすいところではないかということでお示しいたしました。

報告は以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。信木会長には丁寧な御説明ありがとうございます。

ただいまの説明では、丸の数と総合的評価が必ずしも比例するものではないとの御説明もありましたが、東書が白丸の部分が観点別に4つ、自由社はゼロ

でした。一方で黒丸の部分については、東書がゼロ、自由社が1という状況であったかと思えます。選定委員会では東京書籍の教科書のほうが特徴的だという御説明だったかなと思えますけれども、信木会長の御説明に対して委員の皆さんから御意見、御質問ございますか。

○木曾委員 歴史を学ぶ上で、どういうふうに歴史を見るかという視点がとっても大事だと思いますが、この2者の歴史を見る見方の違いというのは特徴的なところを教えていただけますか。

○信木会長 今御指摘、御質問いただいたことが、まさにこの両者のアプローチの仕方といいますか姿勢の違いの一番大きな違いではないかなと思えます。東京書籍は巻頭3というところを御覧いただいて。裏表紙をめくっていただいてすぐのところですけれども。自由社は2ページ、歴史を学ぶとはということを見させていただくといいと思うのですけれども、この教科書の最初に載せている、これから歴史をこんなふうな見方で学んでいこうという各者の姿勢が表れているところです。ここにコンセプトが表れていると言っていると思うのですけれども、東京書籍は御覧いただきまして分かるように、持続可能な社会の実現に向けて歴史を学ぶという。これはSDGsですけれども、これは各教科で取り上げている問題。各教科でという以前に、2035年までに実現すべしということで目標にされている世界的な課題です。この大きな目標、人類の存続に関わるような大きな問題をまずは念頭に置いて、そのために歴史を学ぶというアプローチをしているところが非常に大きな特徴かと思われます。対して自由社は、歴史を学ぶとはということで、3つの日本の歴史を学ぶ意味といたらいいでしょうか、この3つの必然性は特別何かこの3つが並列に取り上げられるというところに何かの分類になっているわけではないのですけれども、日本の歴史を学ぶ意味を3つ取り上げています。これは3つ通して言いますと、日本の伝統から歴史を見たいというそういうコンセプトだと思われます。そこが大きな違いです。

このことをどう評価するかということですが、選定委員会といたしましては、真に国際的な視野を持った人材を育てたい。尾道の子供たちには国際的な視野を持った人間になってほしい。ひいては国際的な競争力を持った人というふうにも言い換えることができますけれども、そういったこれからの世の中をつくっていく、担っていく人たちを育てるという観点からすれば、世界的な課題に取り組むというアプローチのほうがよりふさわしいのではないかと考えています。

以上です。

○佐藤教育長 いいですか。

ほかにどうでしょうか。

○村上委員 両者を読ませていただいて、例えばこちらでは触れているけどもこちらでは触れていないという事項があると思うのです。例えば先ほどのSDGsの問題でも、自由社は触れてなかったと思うのです。東書は触れていると。ほかにも例えばこの前の大戦のコミンテルンとか通州事件について、東京書籍は触れてないけども自由社は触れていると。ほかにもそういったのが、触れ方の違いといいますか力の入れようというか。最近の問題ではチベットとかウイグルの問題でも東書は触れてないけども自由社は触れているというところがあるのですが、そういった内容については特に選定委員会の中では審査の対象ではないということよろしいですか。

○信木会長 個々の内容が、これを取り上げている、取り上げてないというのは、歴史の中学校で学ぶべきことの内容、中学校の歴史で学ぶべきことの内容はどちらも外してないといいますか、必要なことは全部含まれていると思えますけれども、子供たちに与える情報は何を入れて何を入れないかはやはり各者そこには差異があるというはおっしゃるとおりだと思います。そのこと自体は、プラスに評価する、マイナスに評価するという判断はしていません。ただ、その差の部分は、授業で必要であれば先生方が教育現場で実際に教えるときには触れられる内容もあろうかと思えますので、教科書に掲載されているものはもちろん掲載されているほうが資料としてはふさわしいとも言えますけれども、必ず教科書に載ってなくてはできないということでもないだろうとは思っています。

○佐藤教育長 村上委員、よろしいですか。

ほかにどうでしょうか。

○豊田委員 御説明いただいてありがとうございました。

東書につきましては、特に学び方という点で、生徒が歴史学習をしたのを章ごとにまとめていくとか整理していくとかという点でいろんな手法、クラゲチャートとか、それからピラミッドを使ったものであるとか、それからウェビング、そういったものを入れながら、学んだ歴史の一つ一つを整理しながら自分がまとめていくという形で、自主的に学ぶという点については非常に新しい手法を入れながらよくまとめてあるなと思いました。

それから、もう一つ、人物の取り上げ方のところで思いましたのは、自由社で台湾の治水、そういったものに非常に尽くした人物を取り上げて、案外日本の子供たちはそういったことを知らない事例があったりとか、高校で少し関わ



っているときに、そういう台湾の、他国においては非常に日本のすばらしい先人によって台湾が非常によくなっていったのだという記述がしてあるのですが、そういったものが東書にはそれはなかったかと思うのですが、人物の取り上げ方がやはり各者によって違うのだなということを感じましたのと、特に近隣のその台湾問題については、日本人が非常に尽力をしたということの自覚を子供たちが持つともう少し自信を持っていくのかなということを感じたのですが、そういう取り上げ方に特徴がやっぱり両者であるのですね。もう一つ、東書では満遍には取り上げてありましたが、取り上げ方が違うといえますか、そういったものを幾つか感じました。そこらは各者の主張があるのしょうから、それらをどういうふうに捉えていくかということについて、もしお話が出たようでしたら教えてください。

○信木会長 最初に、学ばせ方というのか学び方といいますか、特にチャートやピラミッドのことを御指摘いただいたのですが、これも両者の重要な、大きな違いだろうと思うのですが、先ほど御質問の中で取り上げていただいたことは、学んでいることを構造的に捉えようということです。だから、一つ一つの歴史の知識を羅列して記憶していくというような、つまり歴史は暗記物という学び方は、もうこれは時代遅れの今は通用しないような考え方で、むしろ歴史で学ぶ一つ一つの事柄を有機的につないでいく、意味を持ってつないでいく。これで初めて本当の活用できる知識になっていくというそういうことが今の教育の在り方だろうと思うのですが、そのときに歴史で学んでいく知識の一つ一つを結びつけていくというときに、それがどんな仕組みでつながっていくのかということをチャートやピラミッドで示している、図解で示しているということですので、これは非常に重要なことなんではないかなと思います。

また、この点に関しては、東京書籍は14ページを御覧いただいて、それから自由社は12ページを御覧いただいて、学び方ということについては、こちらは地域の歴史を学ぼうということで、その地域の歴史を学ぶというその課題を生徒たちに取り組みさせるということについては同じですが、東京書籍はどんな手順でこの地域の歴史を学んでいけばよいかという学び方の手順が示されています。自由社は、堺市の歴史を基に、班に分かれてA班からD班までの4つの班でこんなふうに調べましたという具体例が出ています。具体例が分かりやすいということもあるでしょうけれども、自分たちが学ぶときには尾道の子供たちが尾道の歴史をどう学ぶ、調べようということがテーマですから、尾道の歴史を念頭に置いてどんなふうに調べていったらいいかなということで、そ

こを読み替えながらいくと、堺市もたまたま尾道と同じように港町だという点で近いのは近いのですけれども、それはたまたま近いだけでありまして、その手順をこれ、こういう活動をしていったらいいのだよということを示してもらったほうが学び方を教えていることにはなろうかと思えます。つまりどんな手順で学んでいくかを教えるか、それともこんなふうに学ぶことができるよという例を示すかというその違いがここにも表れているように思います。

最近のといいますか、これからの教育の学びの在り方には課題解決的な学び、先ほども申し上げたこととも重なりますけれども、歴史的な知識を暗記するのではなくて、歴史で学んだことを活用して生かしていく、自分たちの生活や社会に生かしていくということが重要ですから、やはり課題解決的な過程を説明しているというほうが理にかなっているのではないかなと思います。

それと、今度、先ほどの御質問とも、村上委員さんからいただいた御質問とも重なりますが、個々の情報内容については、選定委員会ではその優劣を審議はしていませんけれども、自由社の教科書の中に掲載されている情報の中には特徴的なものがあって、我が国と郷土を愛するという点においては有効な情報が掲載されているということは言えると思います。

以上でよろしいでしょうか。

○佐藤教育長 よろしいですか。

ほかにございますか。

○奥田委員 この2者を比較したときに、特に第4の観点のところでの内容の表現、表記のところ、本文以外の記述の工夫で東京書籍は白丸、そして自由社は黒丸。主に黒丸になっている理由のところ、QRコードを活用した学習コンテンツが東京書籍には35あるけれども、QRコード、自由社ではそういう記載がないというところが大きな差というふうにごこのところでは出ております。実際にどうでしょうか、学校の現場でQRコードを活用して授業がどういうふうに行われるのか。その意義といいますか活用状況はどういうものなのか、そのあたりもちょっと説明いただけますか。

○信木会長 私が概略を話した上で、実際のICT機器の活用状況については、事務局で補足をしていただきたいと思いますのですけれども、尾道でも1人1台、生徒個々にタブレット端末を用意していただけるようになりまして、様々なメディアを有効に活用してICTを活用した教育というのが充実してきております。この点につきましても、ICT活用ということはこれからますます押し広げられていくことだろうと思われます。これは歴史だけではありませんで、他教科の教科書においてもデジタルコンテンツを豊富に活用していくという状況にな

ってきていると思います。この点につきましては、特に歴史はそうですけども、科学的概念だけを学んでも子供たちはなかなかピンとこないといえますか、それがなかなか理解に結びついていかないところがありまして、視覚や聴覚など五感に触れて学習していくことが非常に有効だろうと考えています。選定委員会では、こうしたデジタルコンテンツが充実していることは評価すべきだと。ないということは、現時点では他教科の教科書も含めて、ほぼ各者この点については工夫をして充実してきているところでありますから、現時点でこれがないというのは非常にマイナスポイントだと選定委員会では考えています。

活用状況について何か補足していただけますか。

○石本主幹（スマートスクール担当）QRコードの活用状況について、分かる範囲で御説明させていただきます。

授業の中で1人1台タブレットということでQRコードにより読み取るということで、教科書にない資料でありますとか、子供たちがその資料を見て主体的に学んでいく、ここはどうだろうかと考えていくということが広がっていくというふうに、附属の資料がついているというところが大きな特徴と言えます。そのところはまた学校でも授業の進み具合によって教師が活用して、授業を広げて活用していくというふうに進めていくことができていると捉えております。今後、デジタルコンテンツが非常に増えていくのではないかと捉えているところです。

以上でございます。

○奥田委員 典型的な、何か代表的なQRコードの例を見させていただければと思うのですが。

○信木会長 これは動画ではなくて、何かクイズのようなものですね。

これは授業でというよりは家でということですね。ほかのものも見ていただいたほうがいいのかと思うのですが。

[動画視聴]

初めは枢軸国が有利に戦争を進めます。しかし、連合国の反撃によって枢軸国は追い詰められていき、1943年9月、イタリアが降伏。そして、1945年5月、ドイツが降伏します。1945年7月、連合国はポツダム宣言を発表。日本に無条件降伏を求めます。しかし、日本はすぐにはそれを受け入れませんでした。戦争を継続する日本に対し、1945年8月6日、アメリカは広島に原子爆弾を投下。続けて、8月9日には長崎にも原爆が投下されました。原爆の投下から5年以内に広島では20万人以上、長崎では14万人以上の命が奪われ、今なお多く

の人が被爆した放射線による後遺症で苦しんでいます。

○信木会長 動画のようなものは、今までの教科書ではなかなかできなかったものですね。

○村上委員 動画はもうちょっと欲しいです。

○信木会長 そうですね。もっと欲しいですけど、これからだんだん充実していくことを期待したいところです。

○佐藤教育長 いかがでしょうか。

私、毎回聞かせてもらっていますけれども、歴史が好きで、さっき言われた歴史を今後活用していくということがありましたね。そういう意味で言うと近代とか現代の分野が多いほうが良いと私自身は思ったりもするのですが、そういったボリューム的なこと、そういうのは選定委員会ではあまり議論にはならなかったのでしょうか。

○信木会長 今回につきましては、昨年度の全者の検討の中では、近現代、特に現代が扱われていることの意味といいますか重要性ということは話し合いましたけれども、このたびはその二者の優劣という形では選定委員会では取り上げてないです。ただ、現代をしっかりと取り上げていただきたいと、取り上げたいということについては、選定委員会でもそのように考えています。

○佐藤教育長 ほかにどうでしょうか。かなり広範囲な部分で御質問いただいたので、両者の比較も、説明を丁寧にいただきましたし、皆さんの御質問の中で方向性がある程度見えてきたのかなと思ったりもしますが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ほかにないようでしたら、以上で質問を終結したいと思います。長時間にわたり信木先生にはありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

皆さんにお諮りしたいと思うのですが、本来であればこの後教育委員会として審議に入っていくわけですが、本日は別の議案審議もありますので、本日の審議はこの程度にとどめて、次回の8月25日の教育委員会会議において、皆さんの御意見をいただき、審議をして、尾道の子供たちにとってよりよい教科書を採択していきたいと思っておりますけれども、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、議案第42号令和4年度に使用する中学校用教科用図書採択については継続審査としたいと思います。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは継続審査ということで決定いたしました。

次に、議案第43号令和4年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択についてを議題といたしますが、準備もございますので、ここで10分ほど休憩を入れたいと思います。よろしくお願いします。

午後1時59分 休憩

午後2時8分 再開

○佐藤教育長 それでは、再開をいたします。

議案第43号令和4年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

本案については、尾道南高等学校から中野校長先生の御出席をお願いしております。校長先生には、大変お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。よろしくお願いします。

それでは、議案第43号の提案理由の説明を事務局からお願いします。

○本安教育指導課長 教育長、教育指導課長。議案第43号令和4年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択についての提案理由について御説明いたします。

高等学校の教科書採択は毎年行われることになっており、教科書の採択権が学校管理機関である教育委員会の職務権限に含まれているため、採択をお願いします。尾道市教育委員会として5月の教育委員会会議で教科用図書の採択基本方針を御承認いただき、それに基づいて校内に校長、教頭、教務主任等から成る教科書選定会議を設置し、選定作業を行っております。この後、尾道南高等学校校長から学校の経営方針、教科書選定の手順、選定結果等について報告をしていただきますので、御審議いただければと考えております。よろしくお願いします。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまのところまで何か御意見、御質問あれば承りますが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようですので、中野校長から選定会議の審査結果についての御説明をお願いします。

○中野尾道南高等学校校長 広島県尾道南高等学校の校長の中野と申します。よろしくお願いします。

まず、お手元に学校要覧がございますか。これに基づいて、まず尾道南高等学校とこの概要から御説明を申し上げたいと思います。

尾道南高等学校は、尾道市立の唯一の夜間定時制の高等学校であります。明明徳の建学精神を継承し、生徒個々の生活環境や教育的ニーズに応え、社会の中で自立し、自分らしい生き方を実現していくために必要な能力や態度、豊かな人間性を身につけた人材を育成すること、これを目指しております。

学校要覧の6ページを御覧ください。

この6ページに、令和3年度学校経営計画として縦1、ミッション、それから縦2、ビジョン、これを掲げております。今申しましたミッションに基づき、(1)社会に貢献する志を持ち、その実現に向けて資質や能力の習得を主体的に行い、自立性を重んじる生徒を育成したいと。(2)生きること感謝し、進んで人と交わり、理解し、信頼し合える人間関係を構築し、共同して新たな価値を創造していける生徒、これを育成したいと。(3)として、社会人基礎力を身につけ、自らの可能性を信じ、自らの力で未来を切り開いていこうと挑戦し続ける生徒の育成。これをビジョンとして掲げながら行っております。

現在の本校の概要ですけれども、在籍生徒数は47人となっております。新入生が6人。少しずつ減少傾向にあるということが課題であります。働きながら学ぶといったコンセプトも、昨今はその様子を変えております。勤労学生といえば屈強なイメージがありますが、本校の現況としては全日制高等学校のセーフティーネットという役割が色濃く出ているという状況であります。中学校時代に不登校であったり、特別支援が必要であったりと、こういったような生徒が本校に入学し、彼らが社会となかなかつながっていくことができないと、そういったナイーブな生徒が非常に多くなっているという実感を持っております。したがって、こういったような状況を踏まえながら、これから申し上げます教科書の選定を行っております。

では、本校の教科書図書採択について御説明をいたします。

別冊の資料を御覧ください。

まず、1ページ目ですが、こちらが今回採択をお願いする教科書の申請書になっております。詳細につきましては後ほど説明をいたします。

続いて、本校の教科書採択の流れについて御説明をいたします。

別冊資料の3ページを御覧ください。

まず、5月に決定された採択方針に基づき、校内に教科書選定会議を設定いたしております。ただ、先ほども申しましたように本校は生徒数が47人ということで、教員の数も各教科1人ということになっておりますので、校内の選定

会議としてはほぼ全ての教員が関わっているという状況になっています。

教科書選定会議については、4ページを御覧ください。

一応選定会議として、校務運営会議というところが選定会議を兼ねて校務運営会議で選定をしておるという状況であります。校務運営会議のメンバーというのが、そこにありますように、教務部、生徒指導部、進路指導部、総務保健部の教員で、あと校長、教頭、事務長ということになっております。

教科書選定に関わって、教職員以外の構成員についても御説明をいたしたいと思っております。

学校以外のところで学校評議員のお三方を選定委員として含めております。②のところですが、教職員以外の構成員についてということですが、まず学校評議員として、まずお一人は、元本校の校長です。長い教職経験や管理職経験から、本校の生徒のニーズに応え、生徒を育成していくというビジョンを持たれており、本校に対して的確な助言を常にいただいております。それから、二人目の方ですが、元本校のPTA会長であり、本校の教育活動に長年関わっていただいております。それから、三人目の方ですが、元小学校の教頭であり、現在本校のスクールソーシャルワーカーとして勤務をされております。教育相談や生徒指導、それから特別支援教育において優れた実績をお持ちで、本年度も対生徒の知恵袋として協力をいただいているところであります。この方は、他校においてはスクールカウンセラーとして御活躍をされております。このお三方に選定会議に入らせていただいているということであります。

また、教科用図書について調査研究を行うため、調査員を設置しました。調査員は、採択基本方針に基づき、各教科用図書について、先ほど述べました育てたい人間像、また生徒の実態、これらを照らし、適切であると判断されるもの3者にまず絞ってまいりました。その報告を受け、選定会議において選定をいたしてきました。選定会議は4回開催しております。選定した教科用図書及び選定理由書については、4ページから掲載をいたしております。

それでは、続いて今回の審議について御説明をいたします。

まず、少し返りますが、1ページの令和4年度使用教科用図書採択申請書を御覧ください。

次年度より平成30年に告示された高等学校学習指導要領が施行されます。高等学校は、学年進行で新指導要領が実施されてまいります。これは小・中学校のように一斉に全学年で実施されるものとは異なり、順次新入学生において実施されていくものであります。それに伴い、新1年生に関しましては新学習指

導要領に係る新課程となりますので、教科用図書は全て新規のものということになっております。新1年生は、新課程となることで新しい科目の公共が設定されるなど、大きく変わります。特に各学校におけるカリキュラムマネジメントの必要性が問われ、それに基づいて新時代に必要な資質、能力の育成、これを目指すこととなっております。生きて働く知識、技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養です。本校では、1年生に学校設定科目である情報基礎を1単位設けています。新課程の必修科目は情報Ⅰでありますけれども、本校の概要で申しましたように、本校に通う生徒には学び直しという観点が重要となっております。まずはタイピングなども緩やかに助走しながら、2年次から情報Ⅰに取り組むと。こういったような工夫がされていることを申し添えておきます。

新2年生以上は現行の学習指導要領に基づく教育課程となりますので、教科用図書については、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識理解という4つの観点で選択したものについて、現在使用上支障がないと考えており、このままの継続を考えております。一応調査員による3者の比較は行っております。

さらに、下の注の3にありますように、2学年の国語総合、それから数学Ⅰ、科学と人間生活、保健、コミュニケーション英語Ⅰ、社会と情報及び4年生のコミュニケーション英語Ⅱ、これは前学年からの教科書を継続使用するため、資料の10ページからの現行課程の選定理由書に記載はしておりません。現在使用しているものを継続使用するということになっております。

そこで、このたびは新課程の教科用図書9科目を中心に御説明をいたします。

各種目の教科用図書について、先ほど述べましたように調査員が、育てたい人間像、また生徒の実態に照らし、適切であると判断されるもの3者に絞りました。その後、教科書選定会議において3者に絞った理由とそれぞれの特徴について報告を行いました。その報告を踏まえ、教科書選定会議においてそのうちの1者を選定しております。選定理由については、①その教科書を他者と比較しての特色、②育てたい人間像と生徒の実態を踏まえ、なぜその教科書が適切なのかの2点を踏まえて作成しております。

別紙資料の説明は以上であります。

○佐藤教育長 ありがとうございます。尾道南高等学校の学校目標や育てたい生徒像等についても丁寧に御説明をいただきました。



ここで皆さんにお諮りをいたしますけれども、先ほど校長先生からあったように、1年生については新学習指導要領に基づいて全科目についての審議を、2年生以上は旧の学習指導要領に基づいてということになりますから、現在使用している教科書に問題がないというのが校長先生からの御説明であったと思います。そういった意味で、現在の教科書を引き続き採択するという方向で整理をさせてもらう、ここは中心には1年生の教科用図書について質疑をさせていただくということをお諮りしたいのですが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、校長先生、教科科目別に選定経過等について御説明をお願いいたします。

まずは国語。

○中野尾道南高等学校校長 ありがとうございます。

それでは、国語から説明をさせていただきます。

新課程教科書9科目のうち、国語が現代の国語と科目名が変わります。この現代の国語であります、最初に本校の概要を申しましたとおり、本校の場合とはとにかく簡単で分かりやすい教科書をとるところが一番メインのコンセプトとなっておりますので、御覧いただいたら分かりますように、実はこういった選定をするときにまずB5の大きい判です、これを選ばせていただいているところでもあります。どちらかという全日制の高等学校というのはこの小さい判でもう少し分厚い判を使用してやられている学校が多いのですけれども、本校の場合は学び直しというふうな観点も含め、こういった少し大きめの薄めの教科書を、まずそれを選んで、その中から1者を決めていこうという形にさせていただいております。

このB5判の教科書の中身っていうのが非常にゆったりとしておると。それから、図表とかが豊富で、レイアウトがゆったりしているところ、つまり生徒が視覚的に親しめるというところが一番大きな特徴かなというふうに思っています。大体、出ておりますけれど、これぐらいの感じですが、教科書自体が。字がぎっしり詰まっているというような感じではありません。

その中において、本校で一応選定会議のところでは第一学習社の教科書を選んでいるわけですが、これがどのようなことで選ばせていただいているかということですが、まず掲載作品の中に、これが非常に大きいところではあったのですけれども、44ページです、「十六歳のとき」という作品、星野道夫さんの作品があります。これが選定委員のところ、本校生徒に体現できていく中身、本校生徒が体現できるものっていうのが多いのではないかという意見が出

ました。ですから、掲載作品でこれがいいのではないかという形で選ばせていただいているということが一つであります。

それから、中盤ですが、104ページが出ますでしょうか。

教科書の中盤に論理分析というふうな章立てがあって、そこへ論理分析ですから対比、具体と抽象、それから推論、この3観点をそれぞれの作品で対比がなされている作品、具体と抽象が分かりやすい作品、推論、こういったようなことが分かりやすい作品というのを分けながら解説をされていると。この2点において現代の国語に関しては第一学習社がいいのではないかというふうな意見でまとまっております。

現代の国語に関しては以上であります。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

私の説明不足だったのですが、各教科科目別ということで、時間設定をするのを忘れておりました。教科ごとに大体5分程度校長先生から御説明をいただいて、質疑や応答を5分程度、たくさんあれば調整はいたしますけれども、そういった時間配分、1教科当たりやり取りを含めて最大15分程度にしたいと思っておりますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

今の国語、現代の国語について校長先生から御説明いただきましたが、質疑についてございますか。

○豊田委員 御説明いただいた中に、少し見せてもらったのですが、文学作品があまりなかったように思いましたが、先ほどの論理とか推論とかそういったものをたくさん載せてあったのですが、特に生徒からすれば感性を豊かにするとか豊かな心を持っていくとかという面では優れた文学作品も多少あってもいいのかなと思ったのですが、そのあたりは校内での検討のときに何かございましたでしょうか。

○中野尾道南高等学校校長 特にそういったような文学作品のあるなしというところは議論には乗ってないのですけれども、後で出てまいりますけれども、実は本校の場合は漢字にルビを打ってないとなかなか理解ができないという生徒もおりますので、そういったような意味で、今「十六歳のとき」というのを出させていただいたのですが、幾らかでも読み進める中で自分の中とオーバーラップするという作品が上がっているものという観点で選んでいるということになっております。

○村上委員 先ほどから学び直しということをよくお聞きしたのですが、大体どの辺から学び直しの子がおられるのか、それといろいろだと思っておりますけど

も、例えば大学行きたいとか専門学校へ進学したいとかといった子がどの程度おられるのか、その辺、国語についてお聞かせいただければと思います。

○中野尾道南高等学校校長 ありがとうございます。

まず、中学校へ一日も出ていないという生徒もおります。不登校という生徒が非常に多くて、そういったような生徒で全日制の学校はちょっと難しいかなというところで夜間定時制の学校へということに来ていた生徒というのが多いです。本校に在籍している生徒は、本校にとにかく第1志望で来たいという形で来ている生徒はほとんどいませんので、この4年生についても大学進学者はいません。希望者としては就職希望。1人看護師になりたいということで看護学校を目指しておるのですけれども、これも准看というところで頑張っているという状況ですので、生徒の層ということで言うと、大学受験をする生徒は、今在籍生徒の中でそこを目指しているという生徒はいないかなという状況です。

それとコミュニケーションが非常に苦手ですので、まずは人と人とのコミュニケーションができるようになってほしいなという思いを各教員が持っているといったような実態です。ですから、普通なら昼間はアルバイトをして、夜に学校へ通ってくるということが、私たちが目指す姿ですけれども、なかなか昼間にアルバイトをする、ほかの人と接触するということが苦手で、じゃあ昼間は何しているのと言ったら、ちょっと家の手伝いとかゲームしていますとかという生徒が結構多いという、そういう状況です。

○村上委員 学び直しということになると、中学校へ行っていない場合は小学校の高学年ぐらいから表現力とか漢字とかを学び直すと理解してよろしいですかね。

○中野尾道南高等学校校長 そのとおりでありまして、実は教科書以外にも教員が作成するプリントであったり、そういったようなものをまずやらせて、教科書に乗っけていくという状況です。

○奥田委員 先ほどの豊田委員さんの質問で文学作品のことですが、ちょっと見ますと、多分新しい教育課程の趣旨なのでしょう、現代の国語ということで文学作品は基本的に入っていないようです。ですから、そういう教科の性格で、文学作品は新しい教育課程であるのかどうか、2年生になって習う国語総合とかああいうところに出てくるということで、一つの論理的なとか筋道立てて考えとか、そういうところを育てるといふのを主眼にこの科目はできているようですね。

新しい教育課程のこと、校長先生に説明いただきましたが、公共というのが

新しく入ったということで、ちょっと私も新しい教育課程については理解して  
ないのですが、それは教科というよりは、教科書もありませんので、そのあたり  
はどのような形での展開になるのでしょうか。

○中野尾道南高等学校校長 公共というのは公民の中に公共というのがあるので  
すけれども、公共というのが本校の場合は1年生から4年生までであるので、今  
回出させていただいているのが1年生の新課程のところということです。そこ  
では本校の場合、公共は入れておりませんので、これは2年次以降ということ  
になります。

○佐藤教育長 ほかにございませんか。ないようですので、歴史総合に入ります。

○中野尾道南高等学校校長 それでは、お願いします。歴史総合。これも新しい  
科目、歴史総合といいます。こちらは、近現代の歴史ということになっていま  
す。3者選んだところで、一つ一つの文章が短くて、基礎的な部分が多く、写  
真それから図表、こういったようなものが多いものというところではまずは選ば  
せていただいております。一応帝国書院さん1者に絞らせていただいております  
すけれども、これにつきましては、歴史総合は基本的に近現代の世界史が中心  
になっておりますけれども、日本史との比較ができるというところが一つ特徴  
かなと思っております。それから、一つ一つの学習課題が單元ごとに示されて  
おりますので、17ページを見せていただけますか。もうちょっと上へ上げても  
らって。下の表をちょっと。一つが先ほど説明しまして、このように上が日本  
史の年表がこう並んでおるのですけれども、実際歴史総合というのは世界史を  
勉強することになっています。世界史の年表と日本史の年表というのを並べる  
ことで総合的な世界の中の日本というものが比較できる。こういったようなこ  
とがあったほうがイメージしやすいのではないかとこのところ選んでおりま  
す。

それから、21ページを。

この21ページのアジアの中の江戸幕府という表題が1にあるのですが、その  
右に学習課題というのがあります。ここに江戸時代の日本と世界はどのように  
結びついていたのだろうか。この教科書は、こういったような学習課題が実  
は毎回出てくるようになっていきます。こういったような今日何するのかと、ど  
ういうことが課題で何が分かればいいのかということも明確になっている  
ほうが生徒にとってもいいだろうと。この2点が歴史総合の教科書で帝国書  
院さんを上げさせていただいている理由であります。

それから、1部、2部というふうに部で構成されておりますけれども、部末

が非常に充実をしているというのも一つの特徴になっています。部末のまとめが充実しておりまして、探究活動という視点にも考慮された構成になっているというところでもあります。ですから、一応歴史の教科書ではありますけれども、あまり言葉のみで書いているというイメージのないもの、こういうふうなものが選定の基準になって選ばせていただいているという状況であります。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明に対して御意見、御質問ございますか。

要は学び直しやすい、子供たちが興味、関心を持ってということに重点を置かれているということですよ。

今回我々は、調査員さんが選ばれた最初の3冊全部に目を通せていない状況ではあるのですが、やはり学び直しがベースになっていて、その上で子供たちが知識とか理解をしていく。その後表現力とかそういった部分を身につけるために、よりそこに近づくためにこの本を選ばれたということによろしいのですよね。

○中野尾道南高等学校校長 はい、ありがとうございます。まさにそのとおりであります。

○佐藤教育長 次に移りたいと思います。

それでは、数学Iについて御説明をお願いいたします。

○中野尾道南高等学校校長 数学Iであります。この数学Iが非常に本校の実態を映しているのかなということになっておりますけど、4ページが出ますでしょうか。この教科書、実は整数の足し算から教科書になっておりまして、しかも書き込み式になっております。こういったようなところから整数の足し算、引き算、それから九九から掛け算と、こういったようなところも最初取り組んでいくということが必要な場面というのが結構ありますので、そういったようなものを採用させていただいているということ。

それから、32ページをお願いします。

ここ、例えば青く下で書いた300掛ける個数でありますとか、1個300円のケーキを買ったときの代金、全部これルビが振ってあるのですよね。選定委員に聞いてみますと、まずこれだというふうな、全てにルビが振ってあるというところを選んでという話を聞かせてもらいました。普通は数学ですから数研出版さんとかというのが非常に多いかなというふうに思うのですが、ここまでルビにこだわって、学び直しからルビというようにところで東京書籍さんが作られているので、これをここに上げさせてもらったという状況でありま

す。数学に関してはそういったようなところになってきております。

○佐藤教育長 説明に対して御質問ありませんか。

○木曾委員 教科書を全体的に拝見して、一番この数学が特徴的、今校長先生がおっしゃったように学び直しという観点で、数学というよりは算数という、本当小学校からの学び直しというので、私たちが改めて今数学を思い出すにもっともいいなという印象を持ったのですが、ここで学び直しをして数学楽しいと思った生徒さんがまた発展的な学びをするということもできるのですよね。ここをきっかけにして。算数とか数学はつまずいたらそのままでないですか、どんな子も。今までそういう機会がなかった生徒さんも、ここをきっかけにまた学び直し、発展して、もっともっと学習したいという機会もというか、そういう材料もあるということなのですかね。

○中野尾道南高等学校校長 本校が目指しているところはそこでありますので、学び直しをまずしっかりやらせてもらって、実際私が教員の授業を見に行っても、結構高等学校のしっかりした内容を授業中に展開していると。それでも、それこそICTを利用してできるだけ砕いて分かりやすい授業というのをやりながらチャレンジをさせていっているというようなことであります。それについては結構生徒も頑張っついていくという状況がありますので、こういったようなところを積み上げることで、うちは4年間ですから、4年間の中でそれこそ目指す資質、能力というのを身につけて卒業させていきたいというふうに考えています。

○豊田委員 今お話を伺っていて、どちらかというところと個別指導が主になっているのですかね。それで、やっぱりかなり差があるのだらうと思うのですが。中学校へ全然行かなかったとか。そうすると一斉にはなかなか難しいですよね。そのあたりの授業スタイルであったり、やり方といいますか、それはどのようになっているのでしょうか。

○中野尾道南高等学校校長 今実は47人のうち3人が休学をしておりますので、実働が44ということなんです。44人のうちでも仕事の関係であったり、毎日学校へ出てくるというような常時出てくるのは三十数人だと思います。それが4年生までありますので、単純には割れないのですけれども、4で割ると大体10人弱です、毎日1クラスです。そこへ尾道市の御厚意で一応チームティーチングという形で、本校の場合は実際に教員が教えるのですけれども、その同じ教室に支援員の先生に入っています。教員が教える。これをやってみなさいというようなことでやらせてみる。そういったときには、どうも分からんなどというところでは支援員さんが寄って行って、ここはこうなんよというふう

な個別に教えていただけるといふそういった環境を整えているといふことで、授業は大体そういうスタイルになっています。ですから、教員が教壇に立って三十数人の生徒さんを一斉に授業するといふような場面、ないことはないのですけれども、ほぼそういうことはまれかなといふ感じです。

○村上委員 最初九九とか足し算があつたのですけれども、それは十分その程度なら分かっているよといふ子供もいると思ひます。その子らに対してはプリントとかそういったもので対応されているのですか。

○中野尾道南高等学校校長 まずは同じことをやらすのですが、やはりスピード、理解には差が大分ありますので、できている子には次のプリントといふ形で進めていくようにはしています。

○佐藤教育長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようでしたら、次に移りたいと思ひます。

次は、科学と人間生活について説明をお願いいたします。

○中野尾道南高等学校校長 科学と人間生活です。科学と人間生活が本校の場合、これは単位としては2単位ですけれども、1年生と2年生での分割履修にしています。科学と人間生活といふのが、この中には分野としては生物分野、化学分野、物理分野、地学分野が一緒になっているといふことであります。新指導要領でも、この科学と人間生活の2単位ともう一つ基礎科目を2単位取れば必履修がオーケーとなっていますので、本校ではまず1年生の部分で科学と人間生活の1単位分をやるということにしています。

本校の特徴は、普通、これ東京書籍の教科書ですけれども、この科学と人間生活の並びが、実はこの東京書籍さんが生命の科学といふところ、つまり生物分野から始まることになっています。これ多くの場合は物質の化学といふ化学分野からスタートするようになっています。化学分野からスタートすると、例のスイヘイリーベですよね、いふふうなところがまずポンと出てきてしまいますので、これは何のことだといふことになってしまうので、まずは生物分野のから、取り組みやすいほうから1年生の部分はスタートしていったほうがいいのではないかと調べていったら、実はこの東京書籍さんの分、全部調べたわけではないのですけれども、この分ぐらいなのです、生物分野から始まっているといふのが。ですから、この東京書籍さんを候補に挙げさせていただいているといふことになっています。この科学と人間生活に関しては、並びといふのが非常に一番大きな選定の理由となっております。1年生でとにかくそういったように生物の生命科学の部分と物質化学の部分、2年生では今度は物理分野と

地学分野ということをやって、とにかく生徒に難解なイメージを与えないという工夫、それからいわゆる生命科学から始まると公式みたいなものも少なくなるのです。ですから、公式が少ないというのも一つの理由であります。こういう並びというのがちょっと珍しいので、これのほうが取り組みやすいだろうということ考えているということでもあります。

以上です。

○佐藤教育長 御意見、御質問ございますか。

南高の生徒ですけれども、特に今回の学習指導要領、冒頭の説明でやはり生きる力をとということもあったと思うのですけれども、特に中学校時代、小学校も含めてなのかも分かりませんが、不登校ということになったら、この学ぶことと実際の日常生活との関連性であるとか、学ぶことの必要性、生きていくことの、そういうところというのは子供たちの基本的な学びの姿勢の中の部分に欠落をしているようなところがあるのか、その気持ちは十分あって、そういう今までの環境がそれを邪魔していて、今学校へ来るに当たって一番刺激を子供たちに与えるものとして分かりやすい、そういうことを選ばれていると思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

○中野尾道南高等学校校長 やはり、その子によるのですけれども、例えば難しいものを最初から提供してしまうと、最初からつかないという生徒は結構おられます。要するに少しでも理解できるという形だったらそれに乗かって楽しめるというのですかね、というような生徒もいるのですけれども、最初から一斉の授業で、じゃあ今日は教科書何ページを開いてどういうふうなことだよと始めてしまうと、なかなか、伏せてしまったり、そういったようなことにはなってくるだろうなと思いますし、そういったような生徒が多いのは事実です。一つ一つの教科について学ぶ意義というのが彼ら自身に分かっていない部分というのもいっぱいあると思うのですけれども、なぜこの科学と人間生活をやらないといけないとか、数学をやらないといけないとかという部分も教えると同時に、肌でつかみ取ってほしいという思いはこちら側としてはあります。ですから、教科書と併用しながら、それが何とか理解できるようなプリントを提供したり、そういったようなところで教育活動を行っているという状況で、これは今後もそういったような状況にはなっていくだろうなと思います。

○佐藤教育長 ぜひとも学ぶことで社会の中の一員として自分が存在していることとか、学ぶことの意義というのですか、勉強が勉強に終わっていて、それが自分の役に立っているかどうかというところをもう一回、いい機会なので、ぜひともそういうようなことにつながるような、教科書をそういう意味で意識を



いただいとると思いますけれど、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

○中野尾道南高等学校校長 ありがとうございます。

○佐藤教育長 御意見はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようでしたら、次の保健体育に移りたいと思ひます。御説明よろしくお願ひいたします。

○中野尾道南高等学校校長 この保健体育の教科書っていうのは、ほぼ大修館さんをどこの学校も使っているのかなと思ひています。この中に考えようというコーナーがあって、今新指導要領の中で問われております課題解決をする力であるとか、そういったようなものを育成していくためにはフィットしているのではないかなというところで選ばせていただいているということです。それと実社会との関連というのがまあまあ充実しているのではないかとということで、保健体育については、保健体育は比べるのも少なかったのですけれども、大修館さんをその2つの中で選ばせていただいているという状況になっています。

以上です。

○佐藤教育長 御意見、御質問ございますか。

中身を細かく見ていませんけど、例えばヤングケアラーの部分とか生理の貧困の部分とか、そういったことというのは教科書の中にあろうがなかろうが授業の中では展開されていくのでしょうか。今日的な問題としてどうでしょうかね。

○中野尾道南高等学校校長 はい。まさにうちの学校場合はそういったような課題も、子供さんがいるという生徒さんもいらっしゃいますので、そういったようなところは保健体育だけではなくて、いろいろな形で今の課題というのはいろんな教科の中で教科横断的という意味でも取り組んでいくというようなことではあります。

○佐藤教育長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 続きまして、美術のIの説明をお願ひいたします。

○中野尾道南高等学校校長 美術の教科書です。この美術は、表現と鑑賞、これを一体的に学習できるように配慮されているものということで、25ページあたりを。実は25ページに扇風機をあれしている人がいるのですが、この下にこれを描くに当たってのアイデアスケッチという形でスケッチが描かれているのですけれども、美術というところで自分の感性と表現というのを結びつけること

を課題としているのですけれども、その制作過程なんかをこの教科書が多く掲載をしていると。どうしてこういう作品ができているのかなというふうないわゆる制作過程です。そういったようなものを割と豊富に載せているというのがこの日本文教出版さんの教科書であるということが一つの選定の理由となっています。

それから、鑑賞についても、こういった教科書の折り込みをこういう形で使って、横に長い作品というのもありますので、実際こういったようなものを縮刷したものだよという形で説明がつくということとか、鑑賞というところにも視点を当てたものという形でこれを選択しているという状況であります。やはり自分の感性とそれからそれをどう表現するかというところが美術のこの教育には不可欠なものなのかな、特にうちの生徒はいろいろなものを抱えていますので、それがどういうふうに表現されていくのかなというところ、また今の思いを表現するためにはどうすればいいのかなというところが割と丁寧になっているというところがこれを選んだ理由ということになっております。

以上です。

- 奥田委員** 芸術ですが、1年生、美術Ⅰを選ばれて、従来は書道だった、それとも美術も書道も一緒に継続するのでしょうか。そのあたりいかがでしょうか。
- 中野尾道南高等学校校長** 1年生は一応美術Ⅰということになっておりますが、2年生から書道Ⅰ、それから書道Ⅱというふうに。うちの場合は、芸術ですけど、美術と書道どちらもやっているという状況にあります。
- 佐藤教育長** 中学校の教科書を選ばせていただいたときに、その新しい学習指導要領の観点からいくと、おっしゃったように感性というのですか、鑑賞の部分よりも表現、要は課題解決、主体的なということでの表現に重きを置いたような教科書を実は昨年我々は多分選んだと記憶しているのですが、ここの部分のところというのはやはりまだ南高等学校の生徒自体に表現を、自分の意思をそこの中に出していくという部分にまだ課題もあって、そういう教科書を選定したということになるのですか。
- 中野尾道南高等学校校長** 美術には限らないのですけれども、本校の生徒が自分の内側に抱えている思いというのを誰かに伝えていくということは、そういう力はなかなかないのですよね。だけど、人に相談したりするのも力だと思っておりますが、そういう力はやはりつけていってやらないと、特にうちに来ている生徒が社会へ出て行くときに自分を表現できずにまたつまづいてしまうということはすごく心配している部分ではあります。

○**豊田委員** 長江小学校へ以前におりまして、お隣が南高でしたから、交流とい  
いますか、よくさせていただいていたのですけれども、その中で文化祭とか生  
徒が自己表現をする場、そしてそれを一般の方が見られる場ですよ、そうい  
うのをよく企画しておられましたし、それからもう一つ共同制作のようなもの  
を、美術的なジャンルのものを協力して作っていくというふうなそういうもの  
を長期にわたってやっておられたりして、なかなか説明なんか聞いたりして  
も、非常に自信を持って生徒が説明をしてくれたりする場面に遭遇したのです  
が、今でもそういう制作したものを公開して見てもらうとかというような場面  
はあるのでしょうか。

○**中野尾道南高等学校校長** 私は今年から赴任しているのですけれど、今一番う  
ちの学校で足りない部分というのはそういったようなところかなと思っています。  
ただ、これはコロナの関係でどうしても、例えば学校の中で共同的に学習  
をする、グループ学習をする、こういったようなこともちょっとできにくいよ  
うな状況というのがありますので、何とかそれができるようになれば、やっぱ  
りうちの生徒に一番大切なところだと思います。まずは大体一人ポツン、ポ  
ツン、ポツンというふうにいる状況から、ペアワークなどをしながら初めて隣  
の子と会話ができる。それで今度はクラスで何か一つのをみんなと一緒に  
作っていける。そういったようなものを、今新しい指導要領ではカリキュラム  
マネジメントというのがあって、目指すところはそういうところ。それでは、  
そういうところへ向けて各教科、あるいは特別活動、文化祭も含めて、そうい  
ったようなところがどういうふうな教育的効果を発揮していくのだろうかとい  
うのを全体像にまとめながら進めていくということが言われているのですけれ  
ど、そういう意味では文化祭などでお互いが力を発揮しながら、あるいは批判  
しながら一つのを作り上げていくと。こういったような教育活動というの  
は入れ込んでいかないといけないなというふうに考えていますし、やっぱりう  
ち、尾道南高等学校というところは以前からそういうところは大切にしてきた  
のだなということを改めて思っています。ですから、そういったような活動は  
していきたいと思っています。

○**佐藤教育長** 私自身も2年ぐらい前までは、去年多分なかったと思う、文化祭  
へ行かせてもらい、今校長先生が言われた以上に南高の子供たちは力があるな  
と思いました。入学式のときの彼ら、彼女らの姿勢と卒業するとき、人数はそ  
の何分の1になるわけですけれども、卒業するときの彼ら、彼女らの力強さは  
全く違います。特にコロナの中で今おっしゃったような形になっているかも分  
かりませんが、そういう意味で友達に飢えているだけ友達の優しさを感じたら

一つになっていくので、ぜひとも、今教科書採択の話ですから直接関係ないですが、でもそういうところまでできてきたら、やっぱりその次の段階の教科書がもっと変わってくるのかなという期待感も込めて、これは蛇足ですが、言わせていただきました。

○中野尾道南高等学校校長 ありがとうございます。

○佐藤教育長 ほかにございませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、続いて英語コミュニケーションⅠに入ります。よろしくお願いたします。

○中野尾道南高等学校校長 英語コミュニケーションⅠです。こちらも、教科書的には分量の少ないものということに絞っています。読み通しというところが一つの特徴になっておりまして、本校生徒にはパートごとの収録というのがベターであると判断をしています。

38ページを出していただけますか。

ちょっと全体があれなのですけれども、実はこれ見開きの38ページ、39ページでセクションの1は完結という教科書になっています。左側に本文が書かれていて、それについてのQ&Aであったり、いろんな学習内容というのが右側に書かれていると。こういったような形式になった教科書です。これがセクション1ですが、セクション2も同じ形式、セクション3についても同じ形式ということで、左側に本文、右側に解説という形で、本文自体も非常に、私らも見させてもらって驚いたのですが、非常に短いものであり、かつ割と対話形式のものということになっているようです。こういったようなものをまず選ばせてもらっているということでもあります。やはりその日の授業でどこまで行くのかというのが、いや、このページだよと分かりやすいほうがうちの生徒には一番いいだろうということをお勘案しながら選んでいます。

この三省堂の分は、前レッスン、前のレッスンというのが次のレッスンに必ず使われておるという特徴があるようです。これがスタディーイットというふうな、途中にスタディーイットというのがあるのですけれども、ここでこの一セクションで書いてあるスタディーイットというのが次のセクションのスタディーイットのところで生かされているということになっているようです。ちょっと本文を。本文にスタディーイットというのがあるのですが、このスタディーイットというのが前回習った部分というのを、もちろん今回の分もそうですが、前回に習ったことというのを表現の中に入れていたという特徴があるようです。

それから、21ページをお願いします。

21ページが一番下なのですが、ユアゴールということがあって、この章でいうと聞く、読む、やり取りという3要素について学んでいきますよということで、レッスンごとにユアゴールというのが定められておまして、英語の場合5領域ということなのですけれども、この5領域、リーディング、ライティング、スピーキング、ヒアリング、それからプレゼンテーションですが、この5領域が非常にバランスよく組み込まれているというのも特徴であるということでもあります。21ページ、上のほうになりますと、先ほど言いましたように会話形式にはなっておるのですが、非常に短い会話でレッスン、セクション1が完結しているのですが、こういったようにとにかく1つの文章というのが短く、その中でいろんな解説ができやすい状況にあると。こういったような教科書を選ばせてもらっているという、こういうことでもあります。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

御質問、御意見はありませんか。

○木曾委員 英語のこのレベルというか、難易度的にどうですかね。短い文章でということではあるのですが、先ほどの数学は本当に基礎のところから学び直しという内容で、小学校からの復習ができるなという印象があったのですが、英語に関してはどの程度のレベルからの学び直しとか、これで生徒さんたちは学習が進められるというか、取り組みやすいのですか。

○中野尾道南高等学校校長 恐らく中学校の1年生、今小学校もありますけれども、ABCから行くのですけれども、うちの学校の生徒もABCからZまで全部言えない子というのはいます。ただ、ここについては先ほども申しましたように教員の自作プリントというところからスタートをしてその辺を補いながら、いずれにしても高校でもbe動詞と、イズとかアムとかというようなところからスタートします。

それから、英語というのがある意味コミュニケーションの一つのツールというところをクリアするというのが目的でもありますので、そういう意味では割とお互いに、じゃあこの文章を読んでみましょうということで授業が展開されていくと、生徒が結構しゃべるのです。しゃべるっていうか出るのです、言葉が。多分出ているときに文章が頭の中でイメージはされていないと思うのです、恐らく。だけど、耳から入ったものをそのままアウトプットするというようなことはできているのかなと思いますので、そういったようなことを利用するといったら変ですけど、そういったようなところに着目しながら教員が展開をしていこうと考えているのは選定会議の中から非常によく分かりました。

○佐藤教育長 何か。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 家庭総合へ移りたいと思います。御説明をよろしく願いいたします。

○中野尾道南高等学校校長 あと、家庭総合、それから情報基礎ということになってまいりましたけれども、家庭総合につきましては教育図書というところで、中学校の教科書等でピックアップされているものが多いというもので、視覚的に非常にきれいで分かりやすく書かれているというところで選んでいます。

以上です。なかなか、とにかく写真とかグラフとか資料とかというところで、例えば授業展開するときにはそれらをそのまま使って、本文というよりはそれらを使いながら展開をしていくというところに非常にやりやすいところがあるというところかと思います。非常にコラムなんかも充実をしておりますので、話を、いろんな話の展開が広がりを見せていけるかなというところも特徴かと思います。

○佐藤教育長 分かりました。

何か御意見、御質問ございますか。

特にやはりこういう教科は実生活との関わりというのですかね、非常にビジュアルなところが多いから、そういうのを意識されているということでしたね。分かりました。

最後になりますけれども、情報基礎の部分をお願いいたします。

○中野尾道南高等学校校長 情報基礎であります。本校の場合、令和4年度の新指導要領では必修が情報Ⅰということになっておるのですが、1年生ではこのように情報Ⅰではなくて、学校設定科目として情報基礎というのを立ててやろうとしています。理由は、やはり生徒がスマホをいじるのは得意ですけども、なかなかPC、パソコンとかをいじるというような習慣がない生徒が多いものですから、そういったような生徒には実習の中でタイピングであるとかそういったようなことの練習、こういうことから徐々に情報Ⅰへ向けていこうという思いでこの教科書にしております。この教科書は図解編というのと実習編という2分冊になっておりますので、座学でやるときには図解編、こちらのほうを利用しながら行い、実習で情報を行う場合については実習編と。これはきれいに分かれておりますので、この2つを使いながらいわゆる情報教育というものを始めていって、2年生の情報Ⅰへつなげていきたいと考えています。中は、外見もそうですが、このように漫画です。この中身も見ていただければ分

かりますように、イラストというか漫画です。こういったようなところでほとんど表現されておりますので、生徒にとっては非常に取っつきやすくなっているこういう構成になっておりますので、まずこの2分冊になっているところと、こういったような漫画チックに表現がされているという部分でこの日本文教出版さんを選ばせてもらっていると、こういうような状況になっております。

以上であります。

○佐藤教育長 御意見、御質問ございますか。

○奥田委員 学校設定科目という位置づけと、2年になったときには情報Ⅰを使う、履修する。この教科書は図解と実習とか、これそのものが情報Ⅰの教科書と言えるのかどうなのか、その辺の関係をもう少し教えていただけますか。

○中野尾道南高等学校校長 これ情報Ⅰの教科書になってくると思うのです。2年生から情報Ⅰを行いますので、継続というところでこの教科書を使っていくということにはなると思うのですけれども、いかんせん最初からこの教科書を使って始めていくにはなかなかうちの生徒にとっては難しい部分というのがあるのかなと思いますので、取りあえず2分冊になっている分ちょっとボリュームもありますので、最初の部という易しい部分、ここの部分というのを先生のプリント学習等と併せて始めていくという意味でこの教科書を使いながら、来年度の情報Ⅰということへつなげていこうと考えています。

○佐藤教育長 趣旨の質問になるのですけれども、学校設定科目というので単位1ですけど、これは情報Ⅰの中に位置づけられているので単位としては1ということなのですか。

○中野尾道南高等学校校長 来年度情報Ⅰで2単位をやること、来年度というか2年生ですね。1年生でまず設定科目の1単位をやって、2年生で情報Ⅰの2単位という予定であります。

○佐藤教育長 なぜ、お聞きしたかというのと、情報だけはその学校設定科目という設定の、これは分野なのか、レベルなのかというのはよく分かりませんが、ほかの教科において、例えば先ほどの数学のⅠの部分ですよね。そういったところとの関係からいったときに、情報Ⅰだけがこの学校設定科目として妥当なのか、ほかの分野にもそういうものはあったけれども、あくまでもこのそれぞれ学校設定科目を設定しなかったというのは何か、この科目はして、ほかの科目はしないというのは何か理由はあるのですか。

○中野尾道南高等学校校長 なかなか説明するのは難しいのですけれども、特にそういう理由はありません。ただ、情報に関しては、美術はちょっと別です

が、うちの場合、ほかの教科に関しては常勤の職員がおります。ただ、情報については非常勤の先生に教えていただくということになってまいりますので、そういったことも含めてのことかなと思っています。

○佐藤教育長 体制が変わるようであればまた変わってくるということですか。

○中野尾道南高等学校校長 そうですね。そういうことはあり得ると思います。

○佐藤教育長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、一通り、1学年の教科書の関係9科目の説明また質問が終わりましたけれども、校長先生からの御説明に対して聞き漏らしたことがございますか。

○奥田委員 お伺いしてみたいのですが、教育課程全体のことで、尾道南高校では単位制を導入されて、3年でも卒業できるシステムはつくっていないのですか。

○中野尾道南高等学校校長 三修制ではないのです。

○奥田委員 三修制ではなくて単位制。

○中野尾道南高等学校校長 単位制です。

○奥田委員 そうですか。単位制というといふ三修制を思うのですが、そういうことですね。単位制は単位制ですけど、三修制ではないということなのですね。分かりました。

もう一点、先ほどの情報のところもあったのですが、今回新教育課程ということで1年生のところを見させていただいて、新教育課程全体を見て、今1年生はこういう各教科の配置になっていますけども、4年間を見通した教育課程というのはある程度つくっているけどここにはもう出していないのか、今の時点ですぐ1年生だけで入れているのか、その辺、今我々はこの1ページのところで1年生のところだけが入ったものしか見ていないのですが、実際学校としてはもう4年までのところを考えて1年生を入れておられるのか、そのあたりをお聞きしたいと思います。

○中野尾道南高等学校校長 基本的にはやはり4年間を想定しながら1年生のものを、教育課程を考えているということですがけれども、本校の場合、今も話がありましたように、要するにその指導要領で必履修科目、この部分を履修していくことで、ほぼ4年間で80単位ということになりますので、最低限の単位数をクリアしていくということにはなっているかなと思っています。ですから、本来ですと例えばこういう大学を目指してカリキュラムを組んでいこうという形で言えば、ここをちょっと増加単位して何単位かということ想定しな



がら組んでいくのですけれども、本校の場合とはとにかく指導要領に乗っかって、これはやっとなかないといけないという部分をまずは入れていくと。それを何年生で学習をしていくのかという形で決めて、あとの少しあぶれた部分についてはそのときそのときではあれですけれども、入学してくる生徒というのがどういうふうな生徒かということがちょっと見えない部分というのがありますので、若干の変更というのはあるかなと思っております。

○**豊田委員** 教科書採択とは直接関わらないかも分からないのですが、4年間南高で学んで、そしてその先をどのように描くのかということで、これ学校要覧を見せていただきますと、実際に社会に出て会社に働きに出る人、大学はまれにしても進学する人との2つに分かれるわけですかね。4年間を見通した上で南高を卒業した子供たちはどういうふうになってほしいというビジョンといいますか、そういうのは年々入ってくる生徒の資質にもよると思うのですけれども、今年度をスタートに、起点にして1年生が4年生になったときには新教育課程も入っていますから、どういうようになってほしいなというものを描いておられるのでしょうか、教えてください。

○**中野尾道南高等学校校長** 具体的には、最初に申しましたように、例えば人と人との関係でいいますと、自分一人という子が入ってきます。その一人が4年生になったときには社会とつながっていかないといけないと思います。その4年間でこの一人が入ってくる子がどういうふうに社会とつながっていくのかといったときに、まずは1年生のときには少なくとも友達をつくろうという形で目標を掲げて、それに合わせたようなカリキュラムを組んでいく。2年生になったら、それがクラスで一つのまとまりが持つように、つまり2人ではなくてもう少し多人数でコミュニケーションが取れていくと。3年生になったら、これが学校全体でそれぞれのところ、学年も違いますけれども、少ない人数ですからコミュニケーションが取れていくと。それを基に4年生になったら、今度は外へ、例えばインターンシップなども含めて外の人と会話、コミュニケーションができていくということになると、やっとな4年生になってあなたここへ就職目指して頑張りましょうということで就職ができて、就職をした先も離職をすることなくその企業へ勤めて社会に貢献していくということが出来る。一つの例で言うとそういったような形で4年間それぞれの資質、能力を育成していこうということが本校の考えです。

○**村上委員** 選定会議の結果を、評議員の方に御報告されたと思うのですが、そのときに何か意見が出たのならちょっと教えていただきたいのですが。

○中野尾道南高等学校校長 一応それぞれの教科に1人ずつしか大体いませんので、まずどういう教科書をとったときには、その教科に振って調べてくれという形でまず調べてもらって上がってきた。それを校務運営会議の中で話をしながらいろいろ、私の場合で言うと呼んで質問をしながら、これはどういうふうなのというふうなことでやって、1つに絞ってくるというのもその校務運営会議のメンバープラス、ほとんどがみんなと一緒にしているという状況がありますので、これになったよというものが出来て、これについてどうなのという質問をしながら今日を迎えているという状況です。ですから、こういうことになりましたよというのはほぼ各教科の先生の意図というのがすごく発揮されていて、こちらの質問にそれが返ってきて答えてくれているということも踏まえての選定ですので、そういう意味では意見は大体吸い上げてきているかなと。

○村上委員 評議員の意見。

○中野尾道南高等学校校長 評議員の方の意見ですか。これは、特に御意見というのはいたいていありません。今回、学校評議員会と関係者評価委員会にお二人の先生は御欠席だったので、ヨフネ先生だけにこういう形でと見せて、あとは資料で送らせていただいて、もし何かあればという形で伺っておるのですが、そここのところで御意見というのはいたいていありません。

○佐藤教育長 ちょっといいですか。奥田委員の質問に関連しているのですが、先ほどの質問に対して、今年は令和4年度の教科書なので、まさしくこれで申請書はよろしいのですが、ここで言う全体の80単位の部分は、今はできないと校長先生言われたのですかね。

○中野尾道南高等学校校長 新入生ですか。新入生についての4年間というのは大体想定はしております。

○佐藤教育長 想定はできている。

○中野尾道南高等学校校長 はい。

○佐藤教育長 もしできているのであれば、来年からで結構なので、参考資料として、4年間分のそれが分かるものをイメージしておきたい。4年間どちらにしても新学習指導要領に基づいて新しい教科書を我々はきちっと採択をする立場にあるということであれば、来年で結構なので、それは用意をしていただけますか。

○中野尾道南高等学校校長 分かりました。私、新4年度の入学生用の教育課程というのが必要なのだろうなと思いましたが、今回はそれを出しておりませんので、次回からはその入学生が1、2、3、4と上がっていったときの教育課

程と、これを出させていただきます。

○佐藤教育長 また改めて審議をいたしますけれども、ないようですので、以上で中野校長先生への質問を終結したいと思います。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 中野校長先生には長時間にわたりありがとうございました。心から感謝申し上げます。

○中野尾道南高等学校校長 ありがとうございました。

○佐藤教育長 ありがとうございました。

本来であれば、この後教育委員会会議としての審議に入るわけですが、時間もかなり経過をしましたので、審議はこの程度にとどめ、次回の8月25日の教育委員会会議において、本日の校長先生からの説明を踏まえ、改めて各委員の皆さんから御意見をいただいて、よりよい教科書を採択してまいりたいと思っております。ありがとうございました。

再度質問、説明を求めるような質問もなかったと思うので、次回のときに事務局からというのはもう結構です。よって、議案第43号令和4年度に使用する広島県尾道南高等学校用教科用図書の採択については継続審査にしたいと思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 では、継続審査ということで決定いたしました。

以上で本日の日程は終了しました。

これをもって本日の会議を散会すると同時に、第9回教育委員会臨時会を閉会いたします。

お疲れさまでございました。ありがとうございました。

午後3時46分 閉会